

## ダッカ・テロ事件犠牲者へのレクイエム



内村 好  
論説委員  
(株)建設技術研究所  
特別顧問

## ダッカ事件の衝撃

2016年7月2日払暁、衝撃的なニュースが入ってきた。前日の夜、バングラデシュの首都ダッカで、レストランがテロ集団に襲撃され日本人7名が死亡し1名が負傷された。この方々はダッカの交通混雑を改善するために JICA の調査業務に参加された 20 代から 80 代の海外経験豊富なコンサルタント技術者であった。そのうちの 1 人とは筆者も幾度か海外へ同行し、現地での施設視察では目を輝かせて説明された姿が思い起こされ、いまさらながら無念の思いが募ってくる。

わが国が成長戦略の一環として「質の高いインフラ輸出」に官民挙げて取り組んでいる中での事件は、海外展開を進めている建設業界へも深刻な課題を突きつけた。海外展開のキーワードとして「ヒト（人材と技術）、モノ（制度や施設）、カネ（予算や資金）」の三点が重要と言われてきた。しかしながら、これからは以前にも増して「イノチ（安全）」を守ることを重要視しなければならない時代となった。海外へ赴任する社員の安全をいかに担保するかは、企業にとって経営の根幹にもかかわる問題である。さらにはこの事件によって海外での活躍を志望する学生や若者が減少するのではと懸念される。

外務省と JICA は 8 月 30 日に、脅威情報の収集・分析・共有、事業関係者や NGO の行動規範、ハード・ソフト両面での防護措置と研修・訓練、危機発生後の対応、外務省・JICA の危機管理意識の向上・態勢の在り方の 5 項目からなる「国際協力事業安全対策会議」の成果を取りまとめて発表した。安全はもはやタダではないということを前提に、国・関係機関・学協会・企業そして個人においても危機管理意識の向上とリスクに対する新たな備えを構築することが重要となっている。

## 日本のインフラ輸出

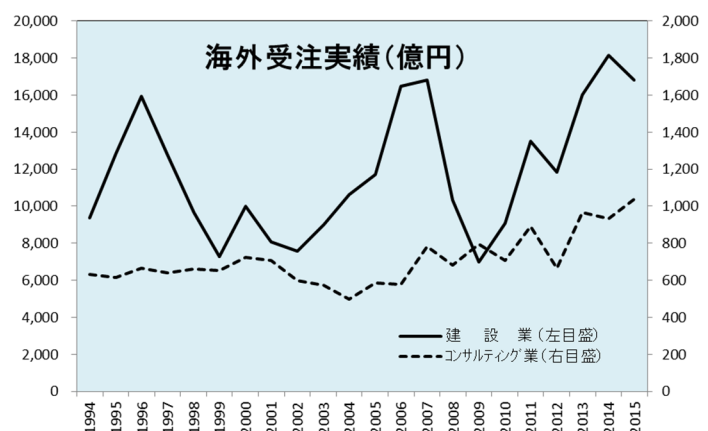
海外の途上国へ目を向ければ、人々の生活の質を向上させるためのインフラ（まさに社会の基盤を支えるもの）需要は

大きく、日本の資金と技術への期待が高い。しかしながら日本のインフラは「質は良いが高くて遅い」との評判を耳にする。施設を作ること（ハード）に加えてその運用や維持管理、また教育や医療などの制度や人づくりといったソフトなインフラ輸出も強化して、「長い目で見た安さ（ライフサイクルコスト）」を加えてこそ価値の向上が図られる。

わが国建設産業の海外受注実績は 2015 年度で建設業 1 兆 7 千億円、コンサルティング業 1 千億円で、多少の波はあるものの、ここ 10 年は増加傾向にあり企業の海外進出意欲も高いと思われる（図参照）。しかしながら単に国内市場の先行きが暗いので海外への短絡的な発想では成功しないであろう。企業にとっては「ヒト、モノ、カネ」に加えて「イノチ」に対する十分な事前の準備、資産の投入が必要である。「ヒト」の面からみれば、これまでは国内と海外とに分断されていたのが現実であるが、これからは国内と海外の人材の流動性や技術の国際化が必須となってくる。その面で国や関係機関と土木学会も含む学協会の果たすべき役割は大きい。

## レクイエム

ハードとソフト両面でのインフラ整備によって、途上国の人々の生活が安定し向上することが、二度とこのような事件を起こさない根本的な解決策の一つである。そのためにも、海外へ赴任する人々やその家族が安心して働ける環境が整い、われわれインフラ事業に関わる者が、ひるむことなく前へ進むことこそ、亡くなった方々への鎮魂歌となると信ずる。



資料：「海外受注実績の動向」（一社）海外建設協会 OCAJI ホームページ

「海外コンサルティング業務等受注実績調査報告書」（一社）国際建設技術協会 IDI